

**ウェザーニューズ、北極海の海水傾向 2014 発表**  
**昨夏以上に北極海海水縮小、航路は一ヶ月早く開通の見込み**  
**～船舶の北極海航路利用や資源開発の動き活発化～**

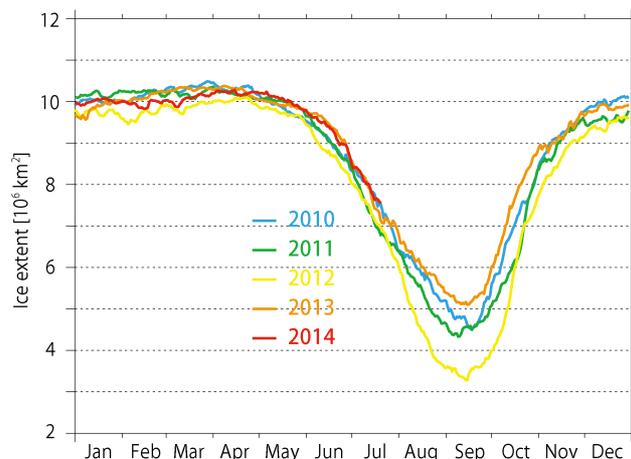
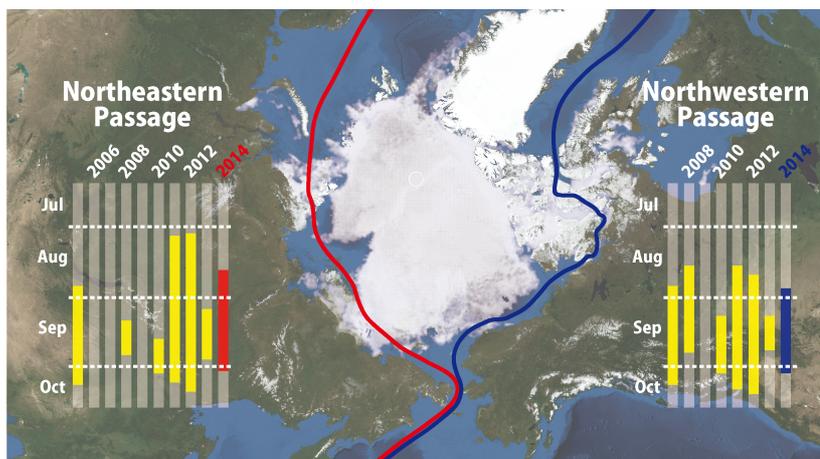
株式会社ウェザーニューズ(本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁)のグローバルアイスセンターは、2014年の北極海の海水傾向を発表しました。北極海の海水は現在まで、過去数年と同程度のペースで減少しており、今夏の最小海水域面積は昨夏以上に縮小する予想です。北極海航路についてはロシア側の北東航路、カナダ側の北西航路ともに8月中に開通し、昨年よりも約一ヶ月早い航路開通となる見込みです。北極海航路の商業航海や資源開発の動きは年々活発化しており、海水に関する詳細な情報へのニーズが高まっています。ウェザーニューズでは、引き続き北極海の海水に関する情報発信を行っていきます。

**◆北極海の海水域面積は昨年以上に縮小、航路は一ヶ月早く開通見込み**

北極海の海水は、今年も例年通り5月下旬から氷の融解が始まり、これまで過去数年と同程度のペースで減少を続けています。現在の北極海の海水面積は約750万km<sup>2</sup>で、海域別に見ると、ロシア側のラプテフ海では海水の融解が進み、その大半がすでに開水面となっていますが、東シベリア海やカラ海西部で広範囲に海水が残っています。また、カナダ側のバロー沖やカナダ多島海でも各所に海水が残っています。今後、北極海の本格的な夏季に向けて海水の融解が加速し、一年のうちに最も海水が融ける9月頃の海水域面積は昨夏以上に縮小するものと予想されます。ただし、観測史上最小となった2012年を下回る可能性は低そうです。

北極海航路については、ロシア側の北東航路は8月中旬、カナダ側の北西航路は8月下旬にも開通(※)する見込みで、昨年よりも一ヶ月程度早い航路開通となりそうです。再び海水が結氷し始める10月上旬までの約一ヶ月半の間、海水域に入ることなく北極海の航海が可能となる見込みです。

※開通の定義：海水域に入ることなく全航路を通ることができると衛星観測データから判断される状況



北極海の海水分布(7/22時点)と、過去の航路開通期間(黄色部分)および2014年の開通予想期間(赤・青色部分)

海水域面積推移(年別)

#### ◆400 隻超が通行許可取得、船舶の北極海航路利用の動き活発化

ロシアの NSRA(The Northern Sea Route Administration)によると、ロシア側の北東航路の通行許可を得た船舶は 7 月 22 日時点で 400 隻を超えており、船舶の北極海航路利用の動きが活発化しています。また約 30 隻の船舶が北極海を航行しています。船舶の運航において海氷はリスク要因であるため、海氷に関する詳細な情報へのニーズが高まっています。ウェザーニューズでは、グローバルアイスセンター独自の海氷に関する解析情報や予測をもとに、北極海を航海する船舶のサポートを行っていきます。